

発生予察、発生生態解明による 植物病害防除

安全農産物生産学コース

小林 隆

准教授

KOBAYASHI, Takashi



キーワード： 発生予察, 発生生態, IPM

専門分野： 植物病理学

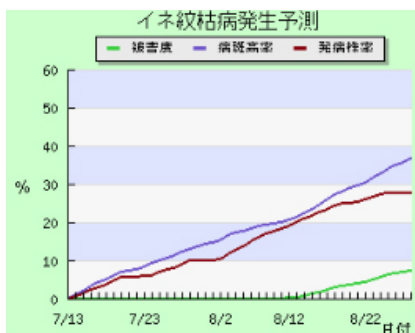
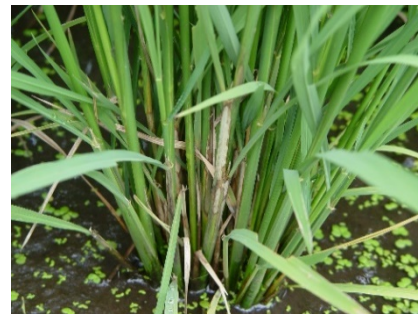
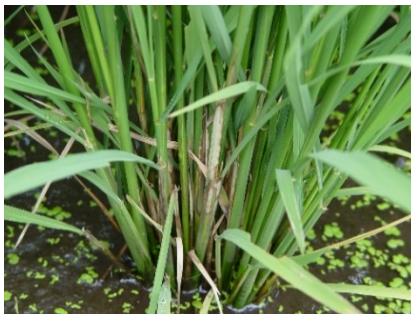
連絡先Email： tkoba@tds1.tr.yamagata-u.ac.jp

研究内容

化学農薬を続けて使用すると、薬剤に対して耐性を示す病原菌が出現することがあります。より持続的な農業生産をめざすためには、化学農薬に過度に依存した防除体系を改めていく必要があります。

総合的病害虫・雑草管理（IPM：Integrated Pest Management）とは、病害虫の発生状況に応じて、様々な防除方法を適切に組み合わせ、環境への負荷を低減しつつ、病害虫の発生を抑制する防除技術です。

IPMを確実に実施するには、病害の発生を予測し、適切な時期に必要な最小限の防除を行うことが重要となります。



イネ紋枯病（左）といもち病（右）の発生予察
（<http://map2.wat.soft.iwate-pu.ac.jp/narct2013/newaccount/>）